

## はじめに

近年、コマツナは栽培が比較的容易で栽培期間が短く、様々な環境に適応できることから周年栽培され、年間7～8回作付けられています。

そのような特徴から、年間雇用が可能で大規模化しやすく、出荷量、作付面積が増加傾向にあります。他の軟弱野菜と同様に収穫作業、調整作業に時間がかかるため、時間当たりにどれだけの束数、袋数を作ることが要素となります。より収益を高めるためには収量性と収穫作業性を兼ね備えた品種が求められます。また、大規模化が進むと収穫が忙しく在圃性がますます重要な特性になります。

当社では収量性、作業性、在圃性に優れた品種を目標に開発を進め、新品种「必閃」を発表いたしました。

カネコ種苗（株）  
ぐにさだ育種農場  
上山 直紀

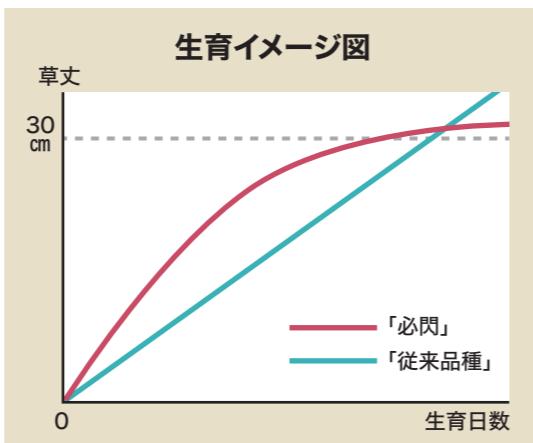
New!

## 新品種のご紹介

驚異の作業性・収量性で、在圃性に優れる  
春、秋まき用コマツナ

ひつせん  
**必閃** (N-006)

(カネコ交配)  
コマツナ



つながるため適期収穫に努めます。  
【病害虫の防除】

- 葉柄部が太り、株張りが非常に良いため一株重が重く収量性に優れます。
- 草姿は極立性で葉柄部が折れにくく、隣の株との葉絡みが少ないため、収穫作業が容易です。
- 下葉が取りやすく、調整する葉が分

## 品種特性

かり易いため、調整作業にかかる時間が短く済みます。

- 初期生育は従来品種より良いですが、収穫時期に近づくと伸長が穏やかになるため在圃性にも優れます。

## 栽培ポイント

秋、春まき栽培に適する中早生品種です。

## おすすめ作型（中間地・暖地）

○2月中旬～4月中旬播種

- 栽培期間は気温上昇期であるため、「必閃」の在圃性の良さを十分に活かすことができます。また、春作は低温の影響からコマツナの生育が停滞しやすい栽培時期ですが、「必閃」は初期生育が良いため生育遅れの心配が少ない品種となります。

## 【秋作】

○9月下旬～10月下旬播種

- 昨今、9月は残暑が厳しく気温の高い日が多くなっています。そのため9月播種を想定している品種ですが、生育が進み過ぎて徒長してしまふようであれば、早まきは避けて9月下旬以降の播種にします。10月下旬下旬以降の播種にします。

草姿極立性で、葉柄部が太く、株張りも良い



生育初期の多灌水は、節間伸長の恐れがありますので控えてください。また、株間や条間をやや広くすることも効果的で良品生産につながります。在圃性には優れる品種ですが、在圃期間が長くなると微量元素欠乏等の生理障害や外葉の黄化の発生に

## 作型表

